

2019. 7. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：8月6日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《7月のおはなし会で使った本》

『きんぎょがにげた』 五味太郎/作 福音館書店 2009

『うみへいくピン・ポン・バス』 竹下文子/作 鈴木まもる/絵 偕成社 2004

『によっ!』 ザ・キャビンカンパニー/作 小学館 2016

『どうぶつむらのたなばたまつり』 一條めぐみ/絵 教育画劇 2010

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『ぎょうれついろいろ』 accototo/作 幻冬舎 2019.6 ¥1300

動物園の行列、ありの行列、子どもたちの行列、ラーメン屋の行列、UFOに乗った宇宙人の行列、サーカスの行列…。私たちのまわりには、いろいろな行列がある。行列に並んだり、行列を観察したり作ったり。この行列の先には何かがあるのか想像力をふくらませてみよう。カラフルでポップな絵が人気のロングセラーシリーズ「うしろにいるのだあれ」の最新作。

<絵本-3, 4歳から>

『あついあつい』 垂石真子/作 福音館書店 2019.6 ¥900

「暑い暑い」と涼しい場所を求めて歩いていたペンギン。日陰を見つけて「ああ涼しい。」ところがその日陰はアザラシの影だった。「ぼくだって暑いんだよ」とアザラシ。2匹が次にみつけた日陰はカバの影。さらに3匹がみつけた大きな日陰はゾウの影だった。みんなが涼を求めて歩いていくと、どこからか波の音が…。暑い夏の読み聞かせにぴったりの楽しい絵本。

『そうだソーダ』 丸山誠司/作 くもん出版 2019.6 ¥1200

不思議なソーダがたくさんあるというソーダのお店。一番人気は、やっぱりクリームソーダだそうだ。ゾウの店長さんのおすすめは、そらソーダだそうだ。暑い夏にはこおりソーダ、寒い冬にはあったかソーダ。あっソーダを飲んだ原始人は「あっそうだ!」とひらめいて火おこしに成功したそうだ。「ソーダ」と「そうだ」でとことん遊びつくす、言葉も絵もユニークなだじゃれ絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『字のないはがき』 向田邦子/原作 角田光代/文 西加奈子/絵 小学館 2019.5 ¥1500

私の家族は両親と弟と妹が二人。戦争が激しくなり小さな妹が疎開することに。父は宛名に自分の住所と名前を書いたたくさん葉書を小さな妹に持たせる。一週間後、大きな赤い〇が書かれた葉書が届く。ところが次の日から〇が急に小さくなり…。クレヨンで描かれた絵が力強い。中学校の教科書にも掲載されている、向田邦子のエッセイ『字のない葉書』を絵本化。

『オニのサラリーマン じごくの盆やすみ』 富安陽子/文 大島妙子/絵 福音館書店 2019.6 ¥1400

地獄勤めのオニガワラ・ケンが鬼のサラリーマン。お盆になり亡者たちは里帰り。あの世バイパスのこの世インターチェンジ付近も渋滞中。からっぽになった地獄では年に一度の大掃除。閻魔さまの浄玻璃の鏡も丁寧に磨きをかける。血の池地獄の血もぬいて池の底の大掃除。ところがそこに金棒を落としてしまったからさあ大変。人気シリーズ『オニのサラリーマン』第3弾。

<絵本-小学校中学年から>

『夜のあいだに』 テリー・ファン エリック・ファン/作 原田勝/訳 ゴブリン書房 2019.6 ¥1700

ある朝ウィリアムが窓の外を見ると町の人が集まり、通りには木の枝を刈り込んで作ったフクロウができあがっていた。そして翌朝から毎日1つずつ素敵な動物たちが現れる。夜の公園で動物たちを作った庭師に「手を貸してくれるかな?」と言われ、ウィリアムと一緒に公園の木を刈り込む。翌朝目を覚ますと…。繊細な描線と落ち着いた色彩が美しい、子どもから大人まで楽しめる絵本。

<紙芝居-小学校中学年から>

『ちっちゃいこえ』 アーサー・ピナード/脚本 丸木俊 丸木位里/絵 童心社 2019.5 ¥2700

黒猫の視点から語られるヒロシマ。原子爆弾はあとからあとから生き物を殺していく。紙芝居の元となったのは丸木俊、位里夫妻の大作『原爆の図』。各場面の猫、鳩、犬、じいちゃん、ねえさん、赤ん坊、細胞たちは、脚本を書いたアーサー・ピナードが、この『原爆の図』という作品と対話をし物語を紡いでいながら選り出した登場人物たち。心に迫ってくる戦争紙芝居。

<読み物-小学校低学年から>

『タテルさんゆめのいえをたてる』 ステファン・テマーソン/ぶん フランチスカ・テマーソン/え 清水玲奈/やく エクスナレッジ 2019.5 ¥1400

自分の家を建てることにしたタテルさん。早速、建築家のビルダーさんのもとへ。希望の条件を伝え、家造りが始まる。家が建ち始めると、様子が気になり、乗り物を乗り継いで現場へ行くが、水が出ない、電気がつかない…。「ゆめのいえ」を実現するまでの顛末を、ユーモアたっぷりの語り口と、味のある魅力的なイラストで綴る、1938年にポーランドで出版された名作。

<読み物-小学校中学年から>

『火星のカレー 宇宙人たちのひみつ』 斉藤洋/作 高島純/絵 講談社 2019.6 ¥1300

宇宙から届くものは、光だけではありません。念波というテレパシーみたいなものが届いたり、地球からも念波を送ったり。その念波によって明らかになった、宇宙人の秘密を教えてください。火星人はカレーと水を求めて地球にやってきたことがあるんだよ。金星人は、仏像のモデルだって知ってた？木星人は…。太陽系の8惑星と太陽に住む人の秘密を明かす、ゆかみの短編集。

<読み物一小学校高学年から>

『あららのはたけ』 村中李衣/作 石川えりこ/絵 偕成社 2019.7 ¥1400

おじいちゃんの世話のために、横浜から山口へ越してきた小4のえり。おじいちゃんから学校のプール位の大きさの畑をもらい、ハーブや野菜を育てることに。一方、親友のエミからは、横浜での学校の様子を伝えてもらう。引きこもりになっている幼馴染みのけんちゃんのことにも気になるし…。二人の手紙のやりとりを通して描く物語。『Kaisei Web』連載を単行本化。

<読み物一中学生から>

『ぼくらのセイキマツ』 伊藤たかみ/著 理論社 2019.4 ¥1400

ノストラダムスの予言によると来年の夏、地球が滅びるといふ。ナナコに告白できないまま死んでしまうのはつらい。でも告白なんてとんでもないこと、どうやってやる？親友のヒロとぼく、ゾンビみたいな人形を持ち歩く保健室登校のナナコ。中3の幼馴染トリオが、互いを思いやりながら、人を好きになる気持ちを募らせていく。芥川賞作家による青春ラブストーリー。

『たいせつな人へ』 マイケル・モーパーゴ/著 杉田七重/訳 あかね書房 2019.4 ¥1300

第二次世界大戦の英雄として、村中の人々から祝福されたフランシスが、90歳の誕生日に人生を回想。人を殺すことは悪だと兵役拒否をしたフランシスに対して、自分の大切なものを守るために志願した弟ピーター。その弟の戦死を機に、フランシスの軍事スパイとしての過酷な日々が始まった。イギリスの児童文学作家モーパーゴが長年温めていた、叔父フランシスの生涯を描いた物語。

<ノンフィクション一小学校低学年から>

『あなたはちっともわるくない』 安藤由紀/著 復刊ドットコム 2019.4 ¥2000

体のあちこちにあざができていくちびくまくん。医者やぎ先生は「なにかに言いたいことはない？」と声をかけるが、ちびくまくんは「ころんだだけ」とごまかす。ぼくが悪い子だからお母さんにぶたれるんだからしかたない、と。「違うよ、あなたはちっともわるくない」虐待を知り虐待をのりこえる絵本。「たいじょうぶの絵本」シリーズ。2001年岩崎書店刊を再編集して復刊。

<ノンフィクション一小学校中学年から>

『折れない心しなやかな心をつくる レジリエンス』 小玉正博/監修 合同出版 2019.4 ¥2800

「レジリエンス」とは、つらいことがあっても心がポキッと折れず、心がへこむことがあってもいつしか回復する心の力のこと。ふだんの生活や学校でよくある、はずかしい場面、つらい場面、不安になってしまう場面などを漫画で示し、どのように考えて行動すれば心が折れずに乗り越えていけるかを、わかりやすく説明。「ピンチを解決!10歳からのライフスキル」シリーズ。

『オフィスで事務の仕事』 埼玉福祉出版部 2019.4 ¥2200

潤さんは毎日一人でバスと電車を乗り継いで職場へ向かう。職場では、決められた仕事を、丁寧に、確実にこなしていく。働き始めて5年、15種類の作業ができるようになった。知的・身体・精神など障害のある人の姿を通して働く楽しさを伝える、バリアフリーの写真ブック。LLブック「仕事に行ってきます」シリーズ。同時に『いちごを育てる仕事』『カフェの仕事』も発刊。

<ノンフィクション一小学校高学年から>

『わたしが障害者じゃなくなる日』 海老原宏美/著 旬報社 2019.6 ¥1500

「車いすの人を助ける時に必要な気持ちは、かわいそうだからではありません。どんな人でも、人間として生きる権利があるからです。」「ケーキを人数分に分けるのが平等じゃない。食べたい分がちゃんとくるのが平等」他。メディア出演多数の、脊髄性筋萎縮症をかかえる著者が、これまでの経験とともに、障害の見方が変わるメッセージを送る1冊。

<ノンフィクション一中学生から>

『若い読者のための「種の起源」入門生物学』 チャールズ・ダーウィン/著 レベッカ・ステファフ/編著 鳥見真生/訳 あすなろ書房 2019.5 ¥2500

1859年出版の名著を、アメリカの歴史科学読み物作家が3分の1に凝縮し、平易な言葉でリライト。生物は変化するという仮説を証明するために、ダーウィンはどのように自然を観察し、論理的思考を積み重ねていったのか？彼の探究の道筋をたどる助けとなる解説や科学の最新の動向などを盛り込んだコラム、随所に散りばめられた自然や生物の美しい写真が理解を助ける。

『平和のバトン 広島の高校生たちが描いた8月6日の記憶』 弓狩匡純/著 くもん出版 2019.6 ¥1500

広島平和記念資料館の依頼で、2007年から続けられている「次世代と描く原爆の絵」プロジェクト。被爆体験証言者の見た光景を、広島市立基町高校創造表現コースの生徒たちが1年をかけて油絵に描き、記録に残していく。証言者と高校生が葛藤を悩みながら制作する過程を追い、若者が戦争や原爆を見つめなおしていくさまを綿密に取材した、平和について考えるノンフィクション。

<研究書>

『親子の対話ですいすい書ける!はじめての読書感想文』 藤田利江/著 子どもの未来社 2019.6 ¥1300

小学校教師として、また司書教諭として、読書感想文指導をしてきた経験から、子供のことをよく知っている大人が、子供と対話し、感想や考えを引き出す方法を提案。低学年から高学年まで、段階を追って、本の選び方から、カードやワークシートの活用、文章の構成まで、誰にでも読書感想文が書けるように易しくレクチャーする。練習用ワークシートやコメント入りの参考作品も掲載。

『中川李枝子 本と子どもが教えてくれたこと』 中川李枝子/著 平凡社 2019.5 ¥1200

『ぐりとぐら』の著者が、読書家の両親の下での幼少期、札幌での疎開生活、戦後の福島での生活の折々で、心に残った本との出会いを語る。さらに、みどり保育園の主任保育母としての奮闘、作品の誕生、画家・中川宗弥との結婚、子育て、石井桃子との出会いを振り返り、平和への願いを伝える。人生の先輩による語りおろし自伝シリーズ「のこす言葉 KOKORO BOOKLET」。

『かこさとしの世界』 平凡社 2019.6 ¥2000

2018年、92歳で逝去したかこさとしを追悼する「かこさとしの世界」展の公式図録。少年時代のスケッチや絵日記、『どろぼう学校』などの手作り紙芝居、絵本の原画や下絵など、初公開の作品や資料を多数掲載。『たむのおじさんたち』に始まる科学絵本から、最後の絵本『みずとはなんじゃ?』まで、その創作の軌跡をたどり、子供たちへの思い、創作への思いを伝える。

※【新刊紹介】の本は、県立図書館で現在受入準備中の本です。そのため、県立図書館の蔵書検索(OPAC)では検索できませんが、利用することは可能です。閲覧、貸出等を希望される方は、お問い合わせください。